

なかむらとくべつしえんがっこうだより

よこはましりつなかむらとくべつしえんがっこう
横浜市立中村特別支援学校

こうりゅう・じんけん ぶ へいせい ねん がつ
交流・人権部 平成31年3月

たの
『楽しめることをいっぱいつくりましょう！！』

よこはましりつなかむらとくべつしえんがっこう
横浜市立中村特別支援学校

こうちよう よしはら まさる
校長 吉原 勝

こうとうぶ そつぎよう
高等部のみなさん、卒業おめでとうございます。

しょうがくぶ ちゅうがくぶ こうとうぶ ねんかん がっこうせいかつ お しゃかいじん せいかつ がっこう
小学部・中学部・高等部の12年間の学校生活が終え、いよいよ社会人ですね。これからの生活は、学校
せいかつ こと かんきよう えがお げんき たいへん の こ おも いま
生活と異なった環境になりますが、笑顔と元気があれば、大変なことも乗り越えられると思います。今まで
じっしゅうさき い たの しごと そつぎようせい あ そつぎよう とき せいちよう
実習先に行くとき楽しく仕事している卒業生にいっぱい会うことができ、卒業の時よりさらに成長していると
かん
感じました。

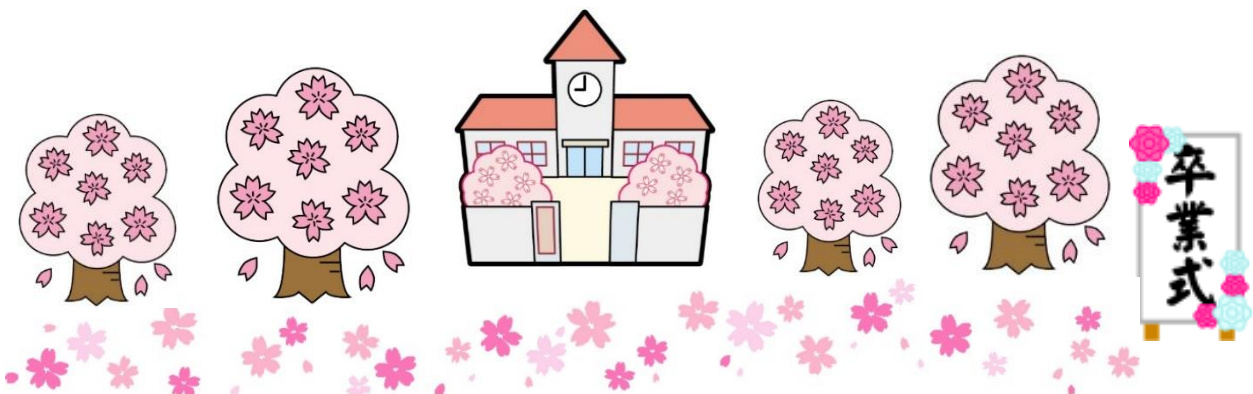
はじめは、ふあん おも がっこう まな
はじめは、不安なことがあると思いますが、学校で学んだことをもとにマイペースでがんばってください。

こんど じぎょうしょ あ とき かつやく すがた しん
今度、事業所でみなさんに会った時は、活躍している姿をみられると信じています。

てつがくしゃ
哲学者のルソーのことばに

「The person who has lived the most is not the one who has lived the longest, but the one with the richest experiences.(
もつと ながい ひと もつと とし へ ひと もつと じんせい たの ひと
最も長生きした人とは、最も年を経た人のことではない。最も人生を楽しんだ人のことである。)」があります。

がっこうせいかつ じんせい ほう なが あら とも たの ぶ
学校生活よりこれからの人生の方が長いです。新たに友だちをつくったり、楽しめることをどんどん増や
たりして、じんせい たの
たりして、人生を楽しんでください。



そつぎょうせい ほごしゃ がっこうせいかつ ふ かえ おも きこう
卒業生の保護者に、学校生活を振り返っての思いを寄稿していただきました。

『^{であ}出会い』

「^{なかむら}中村」との^{であ}出会いは、^{うちの子}うちの^{1さい}1歳の^{とき}時。病院の^{びやういん}個室で^{まいにち}毎日^な泣いていた^{わたし}私に、その^ひ日の^{たんとう}担当ナースが「廊下^{ろく}に出^でてごらん。」その^{えがお}とき笑顔で^{ちか}近づいて^{かのじょ}きてくれた^{なかむら}彼女は、^{こうがくねん}中村の^{かあ}高学年の^{えんそく}お母さんでした。^{えんそく}遠足だ、^{しゅうがくりょこう}修学旅行だと、^{うちの子}うちの子には^{ぜつぼうてき}絶望的だと思^{おも}われていた^{ことば}言葉が^{かのじょ}彼女の^{くち}口から^{えがお}笑顔と^{あか}ともに^と明るく^と飛び^だ出し、^{くら}暗^{くら}かった^{わたし}私の^め目の^{まへ}前に^{ひかり}光が^さ差し^こ込み、^{なみだ}涙が^と止ま^{おぼ}らなくな^{すうねん}ったのを^{まよ}覚えて^{なかむら}います。そして^{まよ}数年^{なかむら}経ち、^{まよ}迷^{なかむら}わず^{なかむら}中村に^{しんがく}進学。小学^{しょうがく}1年生^{ねんせい}を終^おえる^ひ日、^{とうじ}当時の^{たん}担任^{にん}の^{せんせい}先生^{はる}(その^{はる}春、^{ほか}他の^{がっこう}学校^{いどう}に^{いどう}異動^{いどう}されました)が、^こうちの^こ子の^{みみもと}耳元^{みみもと}で^{こえ}声を^かかけて^{わたし}いるのを、^{わたし}私は^{すこ}少し^{はな}離れた^みところ^みで見^{こえ}て^きいました。声^{こえ}は^き聞^きこえ^{くち}ませんが、^{かたち}口の^{かたち}形^はで^はっきり^よと^と読み^よ取^とれました。

「^{ながい}長^{ながい}生き^{ながい}する^{ながい}んだよ。」

^{しょうがく}小学^{ねんせい}1年生^{ねんせい}から^{しんきゅう}2年生^{しんきゅう}に進^{ことば}級^{ふつう}する^{ふつう}だけ^{ふつう}でこの^{ことば}言葉^{ふつう}は^{ふつう}普通^{ふつう}、^{なかむら}ない。^{なかむら}これが^{なかむら}中村^{なかむら}特別^{なかむら}支援^{なかむら}学校^{なかむら}の^{げんじつ}現実^{げんじつ}なんだと^{おも}思^{おも}いました。皆^{みな}生^{あす}きて^{あす}いる^{あす}か^{あす}ぎ^{あす}り^{あす}明日^{あす}の^{あす}こと^{あす}は^{あす}わ^{あす}か^{あす}り^{あす}ませ^{あす}んが、^{あす}この^{あす}学校^{あす}で^{あす}出^{あす}会^{あす}った^{あす}子^{あす}達^{あす}は^{あす}その^{あす}日^{あす}その^{あす}日^{あす}を^{あす}精^{あす}一^{あす}杯^{あす}生^{あす}きて^{あす}いて、^{あす}普通^{あす}の^{あす}元^{あす}気^{あす}な^{あす}子^{あす}達^{あす}よ^{あす}り^{あす}も^{あす}明日^{あす}が^{あす}危^{あす}うい。卒^{あす}業^{あす}後^{あす}の^{あす}人^{あす}生^{あす}は^{あす}長^{あす}い。長^{あす}く^{あす}あ^{あす}つ^{あす}て^{あす}ほ^{あす}しい。この^{あす}子^{あす}が^{あす}い^{あす}る^{あす}から^{あす}出^{あす}会^{あす}えた^{あす}人^{あす}達^{あす}が^{あす}た^{あす}く^{あす}さん^{あす}い^{あす}て、^{あす}これ^{あす}か^{あす}ら^{あす}も^{あす}出^{あす}会^{あす}つ^{あす}て^{あす}い^{あす}く^{あす}んだ^{あす}と^{あす}思^{あす}います。大^{あす}事^{あす}に^{あす}し^{あす}たい。

^{たの}楽しい^{ねんかん}12年間^{ねんかん}、^{ねんかん}あり^{ねんかん}が^{ねんかん}と^{ねんかん}う^{ねんかん}ご^{ねんかん}ざ^{ねんかん}い^{ねんかん}ました。

『^{なかむら}中村^{あゆ}と^{ねん}歩^{ねん}んだ16年』

^{まんかい}満開^{さくら}の^{なか}桜^{なか}の中^{なか}、^{へいせい}平成^{ねん}15年^{ねん}に^{なかむら}中村^{なかむら}養^{なかむら}護^{なかむら}学校^{なかむら}小学^{なかむら}部^{なかむら}に^{なかむら}入^{なかむら}学^{なかむら}しました。そ^{なかむら}こ^{なかむら}か^{なかむら}ら^{なかむら}古^{なかむら}川^{なかむら}家^{なかむら}と^{なかむら}中^{なかむら}村^{なかむら}特^{なかむら}別^{なかむら}支^{なかむら}援^{なかむら}学^{なかむら}校^{なかむら}と^{なかむら}の^{なかむら}付^{なかむら}き^{なかむら}合^{なかむら}い^{なかむら}が^{なかむら}始^{なかむら}ま^{なかむら}り^{なかむら}ま^{なかむら}した。あ^{なかむら}れ^{なかむら}?年^{なかむら}数^{なかむら}が^{なかむら}合^{なかむら}わ^{なかむら}な^{なかむら}い^{なかむら}ん^{なかむら}じ^{なかむら}ゃ^{なかむら}な^{なかむら}い! ?と^{なかむら}思^{なかむら}わ^{なかむら}れた^{なかむら}方^{なかむら}も^{なかむら}い^{なかむら}ら^{なかむら}っ^{なかむら}し^{なかむら}ゃ^{なかむら}ると^{なかむら}思^{なかむら}い^{なかむら}ま^{なかむら}す^{なかむら}が、^{なかむら}そ^{なかむら}う^{なかむら}次^{なかむら}男^{なかむら}の^{なかむら}優^{なかむら}太^{なかむら}が^{なかむら}入^{なかむら}学^{なかむら}した^{なかむら}の^{なかむら}が^{なかむら}そ^{なかむら}の^{なかむら}年^{なかむら}な^{なかむら}の^{なかむら}です。優^{なかむら}太^{なかむら}の^{なかむら}こ^{なかむら}と^{なかむら}も^{なかむら}少^{なかむら}し^{なかむら}触^{なかむら}れ^{なかむら}さ^{なかむら}せ^{なかむら}て^{なかむら}頂^{なかむら}き^{なかむら}ま^{なかむら}す。字^{なかむら}の^{なかむら}ご^{なかむら}と^{なかむら}く^{なかむら}優^{なかむら}しく^{なかむら}誰^{なかむら}に^{なかむら}も^{なかむら}愛^{なかむら}さ^{なかむら}れ、^{なかむら}周^{なかむら}り^{なかむら}の^{なかむら}み^{なかむら}ん^{なかむら}な^{なかむら}を^{なかむら}笑^{なかむら}顔^{なかむら}に^{なかむら}し^{なかむら}て^{なかむら}く^{なかむら}れ^{なかむら}る^{なかむら}青^{なかむら}年^{なかむら}に^{なかむら}成^{なかむら}長^{なかむら}し^{なかむら}て^{なかむら}く^{なかむら}れ^{なかむら}ま^{なかむら}した^{なかむら}が、^{なかむら}残^{なかむら}念^{なかむら}な^{なかむら}が^{なかむら}ら^{なかむら}平^{なかむら}成^{なかむら}22年^{なかむら}9月^{なかむら}に^{なかむら}13歳^{なかむら}と^{なかむら}い^{なかむら}う^{なかむら}若^{なかむら}さ^{なかむら}で^{なかむら}天^{なかむら}国^{なかむら}に^{なかむら}旅^{なかむら}立^{なかむら}つ^{なかむら}て^{なかむら}し^{なかむら}ま^{なかむら}い^{なかむら}ました。そ^{なかむら}の^{なかむら}際^{なかむら}に^{なかむら}は^{なかむら}多^{なかむら}く^{なかむら}の^{なかむら}方^{なかむら}々^{なかむら}に^{なかむら}吊^{なかむら}問^{なかむら}い^{なかむら}た^{なかむら}だ^{なかむら}き、^{なかむら}た^{なかむら}く^{なかむら}さん^{なかむら}の^{なかむら}優^{なかむら}し^{なかむら}さ^{なかむら}と^{なかむら}勇^{なかむら}気^{なかむら}を^{なかむら}い^{なかむら}ただ^{なかむら}く^{なかむら}事^{なかむら}が^{なかむら}で^{なかむら}き^{なかむら}感^{なかむら}謝^{なかむら}し^{なかむら}て^{なかむら}お^{なかむら}り^{なかむら}ま^{なかむら}す。

そ^{なかむら}の^{なかむら}4年^{なかむら}後^{なかむら}に^{なかむら}悟^{なかむら}が^{なかむら}入^{なかむら}学^{なかむら}し、^{なかむら}当^{なかむら}時^{なかむら}は^{なかむら}甘^{なかむら}え^{なかむら}ん^{なかむら}坊^{なかむら}で^{なかむら}よ^{なかむら}く^{なかむら}半^{なかむら}べ^{なかむら}そ^{なかむら}を^{なかむら}搔^{なかむら}い^{なかむら}て^{なかむら}い^{なかむら}た^{なかむら}事^{なかむら}を^{なかむら}思^{なかむら}い^{なかむら}出^{なかむら}さ^{なかむら}れ^{なかむら}ま^{なかむら}す。こ^{なかむら}の^{なかむら}中^{なかむら}村^{なかむら}の^{なかむら}学^{なかむら}校^{なかむら}生^{なかむら}活^{なかむら}で^{なかむら}色^{なかむら}々^{なかむら}な^{なかむら}経^{なかむら}験^{なかむら}を^{なかむら}さ^{なかむら}せ^{なかむら}て^{なかむら}い^{なかむら}た^{なかむら}だ^{なかむら}き^{なかむら}ました。自^{なかむら}分^{なかむら}の^{なかむら}思^{なかむら}い^{なかむら}も^{なかむら}伝^{なかむら}え^{なかむら}ら^{なかむら}れ^{なかむら}る^{なかむら}よ^{なかむら}う^{なかむら}に^{なかむら}な^{なかむら}り、^{なかむら}確^{なかむら}実^{なかむら}に^{なかむら}成^{なかむら}長^{なかむら}し^{なかむら}て^{なかむら}い^{なかむら}る^{なかむら}事^{なかむら}を^{なかむら}実^{なかむら}践^{なかむら}し^{なかむら}て^{なかむら}い^{なかむら}ま^{なかむら}す。

かん うれ おも ひ の みなみしやう こうりゆう おんがく じゆぎやう こうがいがくしゆう さんか いま
感じ嬉しく思います。日野南 小との交流では音楽の授業や校外学習にも参加できて、今でもスクールバスの
の お さい こえ ともだち か
乗り降りの際に声をかけてくれるお友達もできました。まだまだ書ききれないたくさんの思い出…。

なかむら せんせいがた かん ごし ほごしゃ みな たいせつ ともだち なかむら とお たくさん かたがた で あ
中村の先生方をはじめ、看護師さん、保護者の皆さま、大切なお友達、中村を通して沢山の方々と出会えた
こと わたしたちおやこ たからもの おも
事が、私達親子の宝物だと思っています。

みな ほんとう
皆さま、本当にありがとうございました。



なかむら ねんかん 『中村での12年間』

ねんまえ がつちゆうじゆん ご せいはいえん にゆういん にゆうがくしき ぜんじつ たいいん いっしょ にゆうがくしき
12年前の2月中旬、誤えん性肺炎で入院、入学式の前日に退院し、なんとかみんなと一緒に入学式に
しゆっせき
出席できました。

にゆういんちゆう い きゆういん ひつよう ふあん
入院中、胃ろうになったり、吸引が必要になったり、不安だらけのスタートになりました。

まおな はや がっこうせいかつ な わたし ほう しんばい つ そ きかん お ひかえ
真桜菜は早めに学校生活にも慣れてくれましたが、私の方が心配で付き添い期間が終わってから
しつ じかん おお としき せんばい かあ いろいろ はな そうだん あんしん こと
室にいる時間が多く、その時に先輩お母さんと色々と話したり、相談したりできて安心する事ができました。

がっこうせいかつ な ほっさ むずか なか せんせいがた
学校生活には慣れてくれたものの、発作のコントロールは難しかったです。そんな中、先生方が「できる
こと」「すきなこと」をたくさん見つけてくれてチャレンジし、すごく成長を感じる事が嬉しかったです。

なかむら す がつ ふあん
中村でぬくぬくと過ごしてしまい、4月からはやっぱり不安もあるけれど…。

まおな こ こ
真桜菜は「つよい子、がんばれる子」になったので！！

だいじやうぶ しん おうえん
きっと大丈夫と信じて応援していきます。

ねんかん せんせい ささ そつぎやう むか こと
12年間、たくさんの先生、みなさんに支えられて、卒業を迎える事ができました。

ありがとうございました。

せいちやう 『成長』

みらい う ちよくご な ごえ こねこ な ごえ な ごえ ほうこく
未来が生まれた直後の泣き声は、子猫のような泣き声で、パップに「ネコみみたいな泣き声だったよ。」と報告し
た。1845gで生まれた未来はそのまま大きな病院へ。染色体検査をしてから数日後、先生から「5P-症候
ぐんまた な しやうこうぐん い せつめい いろ かんじやう あ じぶん かんじやう なみだ
群又の名を『ねこなき症候群』と言いまして…」という説明。色んな感情がこみ上げてくる。自分の感情と涙の
コントロールが出来ず、先生の説明なんて全く入って来なかった…。現実を受け止められないまま未来は8ヶ
げつ たくじしよ ねんしやう ほいくえん かよ きも てき げんかい まいにち な はは ねんちゆう ころ
月から託児所へ。年少から保育園に通いましたが気持ち的に限界が…。毎日のように泣く母。年中の頃

ようやく通園に通い始め、私にはママたちがキラキラして見えて、泣き虫の弱い母は少しずつ変わり始める。そしてキラキラしている明るい中村に通うようになって、未来が成長していた横で、母も一緒に成長していた事を今、改めて振り返る。泣いてばかりいた時間を過ごした昔の私に伝えたい。『大丈夫！未来もアンタも成長する！！だから前を向け！！』と。

先生方とお友達とママ達に出逢えて本当に良かったです！こんなに成長させてくれた中村特支！本当にありがとうございました！！



『中村でみつけた宝物』

夢と希望とちよっぴりの不安を抱えて中村特別支援学校の門をくぐったのは12年前…いえちよっぴりの不安といえば嘘になります。その頃の私には不安がいちばん大きかったかもしれません。

それまでは発作を起こさないように細心の注意を払って音をたてない生活を送っていました。優月にとって嫌なことは出来る限り取り除いてあげたかったからです。

でも入学するとすべてが一変しました。音楽や笑い声のあふれるクラス、そして中村小学校との交流…。初めは交流する必要があるのだろうかと思っていましたが、ある日中村小学校の女の子がクラスにお父さんを連れて来て「この子がお友達の優月ちゃんだよ」と紹介してくれました。お父さんは少し困惑しているようでしたが、私は女の子のお家でお友達として会話に上がっていると思うと何だかとても嬉しかったことを覚えています。

学校の授業も、それはやらなくてもいいのではと思うことも沢山あると思います。でも今だから言えます。社会に出て生活していくには演歌や洋楽も、ベトベトやヒエヒエも大切な経験なのです。大好きなことはいっぱい、苦手なことはちよっとだけ頑張ってみてください。新しい道がきっと開けると思います。

最後に優月に沢山の愛情を注いでくださり、そして沢山の経験をさせてくださった先生方、仲良くしてください。たみなさま、12年間本当にありがとうございました。



『ありがとう』

〇〇は発達が少しゆっくりりなだけで普通に成長していくものだと思っておりましたが、障害者手帳を交付された時、私が想像していた子育ては出来ないのだ…とショックを受けた事今でもハッキリと覚えています。

今後の子育ての事で不安に思っていた時療育センターで出会ったお友達、その家族に会っていろんなお話をさせてもらう事で不安な気持ちが楽しみに変わっていきました。

中村特別支援学校で過ごした間に〇〇はいろんな事を学びました。小学部・中学部・高等部と進級するごとに出来る事も増えて驚きの連続でした。身体を動かす事や食べる事ももちろんですが、その中でも音楽が大好きになり先生達と一緒に勉強する事で〇〇の眠っていた才能を引出してもらえたと思っています。家では見せない表情等を先生とのやり取りで見れた時、先生方はいつも大きな愛情を持って接してくれてるんだなととても嬉しく思いました。

これから社会に出る事に不安はたくさんありますが、大好きな歌をうたいながら関わってくれる全ての人にありがとうの感謝の気持ちを持って〇〇らしく笑顔で生活して欲しいです。

今まで親子共々支えてくださったすべての皆様に感謝します。本当にありがとうございました。



『愛ちゃん』

「愛ちゃん」生まれて来てから今日までにどれほど名前を呼んだことでしょうか。まだおしゃべりしている時は色んな事をたくさん頑張って、いっぱい「愛ちゃん」と応援しました。そして倒れてしまっからは目を開けてほ欲くて、お母さんを忘れてしまった愛ちゃんにおもだほ欲くて、笑顔をおわす愛ちゃんにまた笑ってほ欲くて…。そして少しずつ少しずつ思い出し学年が上がるごとに笑顔あふれる愛ちゃんになっていきました。

それも先生方の熱意あるご指導があったからこそと確信しています。又、発作や食事、排泄時はもちろん、何でもなくても「愛ちゃん、愛ちゃん」一日に何度呼ぶ事でしょう。呼びやすい名前にして良かったです。

そして「愛ちゃん」とたくさん呼んでくださった先生方、学校の皆さん、バスの皆さん、保護者の皆さん、今まで大変お世話になり、感謝してもきれません。本当にありがとうございました。

小学3年生から中村に来て今まで、母子共に成長させて頂き、これからの未来へ向かって頑張っている勇気をもらいました。この学校で養い、育てて頂いた全てを大切にこれからも元気に愛ちゃんと進んでいきます。皆さんもお元気で！



『宝物の12年』

とうとう卒業の時が来てしまいました。

長かったけど、あっという間の12年。気づけば尚希も18才という信じられない現実…(笑)

生まれてから中村に入学するまでは、毎日必死で手探りで、どこかに何かこの子を助けるヒントがあるのでは？と一生懸命でした。

中村に入学し、先生方の愛情たっぷりの日々のご指導のおかげで、できる事がひとつまたひとつと増え、主治医の先生にも「学校ってすごいねー！」と診察のたびに感心される程成長させてもらいました。また、母もたくましい先輩母たちに中村の素晴らしさと母の強さを教わりました。

12年の間には、楽しかった事、嬉しかった事、苦しかった事、悲しかった事たくさんたくさんありましたが、すべてが今の尚希、未来の尚希につながっているのだと感じています。時々、病院や街で「尚ちゃん！こんにちは！」と知らない方から声をかけて頂く事があります。いつの間にか多くの方に支えられ、助けられ、尚希は自分の世界を広げているのだなあとしみじみ感じつつも心強く嬉しく思います。

4月からは新しい世界に一步踏み出し、時に甘えながらマイペースで楽しんでくれたらと願っています。

先生方、職員保護者の皆さん、お友達、本当にありがとうございました。感謝の気持ちでいっぱいです！



『心の声』

生まれてから2年間はほとんど入院生活を送り、喉頭気管分離術をしたことで体調は安定しましたが、晴佳の「声」を聞くことが叶わなくなり悲しかった記憶があります。

でも「なかむら」に入学してから「はい」と「いいえ」が出来るようになり、先生やともだちと関わりを楽しみ、授業や行事を目いっぱい楽しみ、学校生活を満喫して12年間で心も体も大きく成長しました。

いよいよ卒後の進路を考える時に現場実習に行き、晴佳は自分なりに通所候補先の雰囲気を感じ取り、『私、ここに行きたい!』と「心の声」が聞こえてきました。今までは子の人生のすべての場面をマネジメントしなければとカンでいましたが、はっきりと自分の希望を出してきたのに驚いたのと同時に自律した姿を嬉しくおもいました。

これから社会へ飛び立とうとしていますが、「笑顔力」で自分をアピールし気持ちを積極的に伝え、人生を生き生きと過ごして欲しいと願っています。ここまで来られたのも晴佳を支えて下さった沢山の皆様の支えのおかげと感謝しております。有難うございました。



卒業
おめでとう!

